

2024.8  
(公社)富山県薬剤師会  
広報誌

とみ やま  
富 薬

8号

第46巻  
No.421



ニンジンボク *Vitex cannabifolia* Sieb. et Zucc.

(クマツヅラ科 *Verbenaceae*)

**生薬** ボケイシ（牡荊子） 果実が成熟する初秋に摘み採り陽乾する。

**成分** セスキテルペン： $\beta$ -caryophyllene 等。

**効能** 中国で用いられる。風を去り痰を化す、気を下す、止痛するの効能がある。咳嗽喘息、暑気あたりによる発疹、胃痛、疝気、白帯下を治す（中薬大辞典より）。牡荊茎、牡荊根、牡荊葉、牡荊瀝（茎汁）も用いる。

元富山県薬事研究所  
薬用植物指導センター

村上守一氏 写真撮影

## 〇〇表紙について〇〇



中国中南部など温暖な地域を好みます。高さ1-3mになる落葉低木で、庭木などに植栽されるほか薬用に栽培されます。葉は掌状複葉で対生し、小葉は5枚、枝先の葉では3枚。葉柄は3-6cm、頂小葉が最も大きく、広披針形。先端は長く尖り、基部は楔形。小葉の縁には不整な大型の粗い鋸歯が少数あります。葉をもむと爽やかな芳香があります。葉の形がニンジン(*Panax ginseng*)の葉に似ているところから和名「ニンジンボク」が付けられ、またアサ(*Cannabis sativa*)の葉に似ていることから種小名「*cannabifoliat*(アサのような葉)」が付けられました。花期は7-8月。上部の枝先や葉腋から長さ10-20cmの細長い円錐花序を出し、淡紫色の小さい花を多数つけます。果実は核果、長さ約3mmの倒卵形で、

萼に包まれ、黒く熟します。

中国では古くから薬として用いられたようで、『名医別録』(502-536)に「牡荊実、味苦、温、毒無し。骨間の寒熱を除き、胃気を通利し、咳逆を止め、気を下すを主る。河間南陽宛句山谷、或は平壽、都郷高堤岸上及び田野中に生ず。八月、九月に実を採り、陰乾す」とあります。

同属植物のセイヨウニンジンボク(*V.agunus-castus*)はヨーロッパ、西~中央アジア、アフリカ北部に分布し、庭園、公園などに植栽される落葉低木で、全体に特有な香りがあります。葉は掌状複葉で小葉は5-7個、2個の小葉は他のものより短くて、小さい。小葉は普通、披針形、長さ5-12cm、幅1-2cm、下面に帯白色の綿毛があり、全縁。花序は頂生、長さ10-20cm、花は紫色。核果は球形4室からなり、それぞれの室に普通1種子を持つ。果実は、薬用にしたり、コショウ(*Piper nigrum*)の代用に用いられたこともありました。現在では、健康食品やハーブティーに利用され、世界各地で栽培されています。古くから民間療法として、月経不順や不妊などに用いられてきました。この植物の成分が性ホルモンの分泌に作用するといわれています。日本には明治中期に渡来しました。

古代エジプトの『エバース古典』(BC1550)には「緩下剤として」、また「歯を強くするため」、その他「じくじくする湿疹の腫れた患部に」、「丹毒の薬」などに配合されることが記されています。古代ギリシャのヒポクラテス(BC460-377)は「子宮からの出血には葉を浸したワインを飲ませる」と記し、古代ローマのプリニウス(23-79)やディオスコリデス(40-90)は用い方や効能を記しています。ディオスコリデスの『薬物誌』に「*Vitex*は低木であるが、木に近い丈がある。湿原やその周辺、荒れた起伏の多い土地に生育する。小枝は長く折れにくく、葉はオリーブ(*Olea europaea*)の木の葉に似ているが、より柔らかく大型である。花は紫がかった白いものと、紫色のものがあり、種子はコショウの種子に似ている。薬効は緩め収斂させる作用があるが、実を服用するとヘビに咬まれた傷、脾臓病、水腫に効果がある。また1ドラム(約4.37g)をブドウ酒で服用すれば、乳の分泌を促し、月経血を排出させる。また不妊にさせ、頭の働きを乱し、深い眠りに陥らせる。茎葉および種子の煎じ汁を坐浴に用いると子宮の痛みや、炎症に効く。種子をPulegium(メグサハッカ *Mentha pulegium*)とともに服用するか、燻蒸、外用すれば浄化作用がもたらされ、パップ剤として用いれば頭痛が解消される。昏睡状態の者、精神錯乱の者には、酢および油を混ぜ静かに頭に灌ぐとよい。葉を燻蒸あるいは、撒布すれば猛獣を追い払うことができる。パップ剤にして塗布すれば、猛獣に咬まれた傷に効く。バターおよびブドウの葉とともに貼れば睾丸の硬化が緩和される。種子を水に混ぜて塗れば切れ痔に効果があり、葉と種子を併用すれば脱臼や傷が治る。旅行中にこの植物の枝を手を持っていれば、馬の鞍擦れを防ぐといわれる」など多くの用い方が記されています。(村上守一 記)